

いきいき弥小っ子



子どもたちの学力について～NRT（標準学力検査）等の結果から～

弥彦小学校 校長 石黒 和仁

4月に実施したNRT（標準学力検査）の結果をお知らせします。残念ながら、算数以外は、全国平均を下回っています。学年別にみても、5年生以外は全国平均を下回っています。6年生を対象にした全国学力・学習状況調査においても、国語、算数いずれも、平均正答率が全国や県よりも低い結果でした。特に、思考力・判断力・表現力に難があります。

このことはここ数年の傾向であり、子どもたちの学力向上は喫緊の課題と言えます。学校としては、結果分析等を基に、子どもにとって「分かる」「できる」が実感できる授業づくり、学習規律の徹底等に全校体制で取り組みます（詳細は後日改めて）。また、個別の診断結果を基にして子どもの理解を一層深め、個別指導の充実を図ります。

保護者、地域の皆様にはお願いです。

- ・早寝・早起き・朝ご飯で、家族みんなで爽やかに1日をスタートさせてください。学校でのやる気や集中力等がアップします。
- ・子どもが家庭学習に安心して取り組める時間と場所の環境をつくってください。また、家庭学習や余暇など、時間を有効に活用して充実した家庭生活ができるよう相談にのったり声をかけたりしてください。
- ・ゲームやテレビ、動画等と接触する時間は、今後ますます長くなることが予想されます。使用のルールをきちんと定め、メディアよりも親子のふれあい、地域の人とのふれあいに時間をかけてください。

「認知能力」と「非認知能力」

なお、学力検査によって測定できるのは、「認知能力」と呼ばれる数値化できる学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。近年では、特に幼児教育において、測れない「非認知能力」が注目されています。粘り強さ、協調性、やり抜く力、自制心、感謝する力といった類のものです。いわゆる「生きる力」です。村が育成を目指す4つの力（かかわる・粘り強さ・振り返る・課題解決する）も同様です。「非認知能力」が高まると「認知能力」も高まるという結果も出ています。弥彦小学校では、

地域との関わりの中で学ぶ生活科や総合的な学習の時間（弥彦タイム）、他者との関わりを学ぶ学校行事や児童会行事、縦割り班活動などにも力を入れ、「非認知能力」の育成を図っています。

家庭では、授業参観や学校行事でのお子さんの姿を話題にし、親子のコミュニケーションの時間を取ってください。そして、頑張ったことを大いに称賛したり、将来の夢や希望について語り合ったりして、お子さんがこれからもがんばろうとする気持ちを育ててください。

学校と家庭、地域とが連携して、子どもの力を伸ばしていきたいと思います。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

保護者アンケートから①

7月の保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。みなさまから、学校の取組や指導に対して温かいお言葉をたくさんいただき、うれしく思っております。また、ご意見については真摯に受け止め、改善を図っていきます。

その一つとして、**学校指定のうち履き**についてです。「指定のくつを廃止してはどうか」という問い合わせがありました。学校としては、多様な活動に対応する機能面や衛生面、管理面、値段等から総合的に判断し、これまで通り、うち履きをムーンスターの「バイオ Tef 01」を指定としていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、多様な好みに対応するという点で、線の色（カラー）については、自由とします。販売店舗は、行田商店（麓）・マルトミ商店（矢作）・プレパレ（弥彦）などです。

創立 50 周年記念事業に伴う寄附のお願い

配布いたしました趣意書にご賛同いただき、ご協力をお願いします。問合せは、学校：小川教頭まで（電話 94-2043）。

（校長 石黒 和仁）